

直播用甘しょ「九州70号」について

小野敏忠・丸峯正吉・山川 理

(九州農業試験場)

ONO, T., MARUMINE, S. and YAMAKAWA, O.
Direct Planting Iine, "Kyushu No. 70" on the Sweet Potato.

甘しょ作における直播栽培は、挿苗栽培に比較して、育苗が不要であり、植えつけ時の天候に支配されることなく、播種作業の機械化が容易である。初期地上部生育が旺盛であるため、梅雨期のエロージョン防止に役立つなどの利点があげられる。しかるに挿苗向きに育成された現存品種を直播した場合、種いもの肥大が著しく、生産されたいものの品質は極めて悪い。このため種いもの肥大が小さく、品質のよい子いものが多収となる直播用品種の育成が要望された。このようなことから九州70号が育成されたので、その概要を報告する。

来 歴

1966年九州農業試験場作物第二部指宿試験地において、コガネセンガンを母に、九州58号を父にして交配したもので、1967年熊本県農業試験場甘しょ隔離ほ場において実生し、翌1968年九州農業試験場作物第二部に移して挿苗向き選抜を行なった。翌3年目以降は直播向きの選抜試験に移して選抜を重ねたもので、1973年2月九州70号の系統名を付した。

形態的特性

茎長は中間型であるが分枝数が多いため、総茎長は長い。親根いも型であるが、種いもを輪切り細断するとつる根いもを生じて中間型となる。いもは紡錘形または長紡錘形で個重型であり、皮色は帯褐紫紅色、肉色は淡黄

である。いものほ場萌芽が多い。

生態的特性

地上部の初期生育は、挿苗に比べて旺盛である。萌芽率は小さいもを切断しても極めて高い。種いもを輪切りにすることにより、種いもの肥大が抑制される。適期挿苗のコガネセンガンに比較して、子いも収量、でん粉歩留りともにやや劣る。1個重が過大になっても、でん粉歩留りは低下しない。長崎県農業試験場調査による黒斑病抵抗性は弱、宮崎県農業試験場におけるネグサレセンチュウ耐虫性は強、育成地におけるネコブセンチュウ耐虫性は強である。

栽培上の注意と用途

播種期は平均気温が14~15°Cとなる4月上~中旬が適期と考えられる。種いもは10~20gに輪切りすることにより直播性が向上し、種いも節約にもなる。切断して直ちに播種してもよいが、種いもが小さすぎる場合は、萌芽伸長がよくないので、増収のためには切断いものキュアリングや萌芽直後の追肥により、初期生育を促進する必要がある。栽植密度は70cm×35cm前後が適当である。直播栽培においては小さいもの生産が少ないため、種いもはツル先苗を用いて別に採種栽培することが望ましい。黒斑病に弱いことに留意しつつ、省力かつ大規模栽培の飼料用、工業原料用として利用価値が高いと考えられる。

品 種 名	特 性 概 要								
	項目	種 蒔 1 個 重 g	種 蒔 肥 大 率 倍	萌 芽 率 %	7 月 上 旬 総 茎 長 cm	a 当 り つ る 重 kg	a 当 り 上 蒔 重 kg	切 干 歩 合 %	で ん 粉 歩 留 %
九 州 7 0 号		12	2.7	99	147	404	244	35.9	22.5
コガネセンガン		—	—	—	31	320	268	34.8	24.4

注) 1) 数字は1972~1973年平均。

2) コガネセンガンは5月26日、6月5日挿苗。

3) 九州70号の上蒔重は親蒔重を除く。